

令和5年度 指定管理施設検証結果報告書

PLAN	施設名	甲州市やまと天目山温泉資源活用施設			検証日	令和6年7月8日	
	所管課担当名	観光商工課 施設管理担当	課長名	廣瀬 仁	作成者名	小澤 龍司	
	指定管理者	名称	株式会社 栄和交通				
		代表者	代表取締役 原田 孝典				
		所在地	山梨県笛吹市春日居町別田361番地1				
		指定期間	平成31年(2019年)4月 ~ 令和6年(2024年)3月				
	管理施設の概要	施設所在地	山梨県甲州市大和町木賊517番地				
		設置目的	温泉資源の活用を通じて、市民福祉と健康の増進を図るとともに、広く一般の休養のための施設として、温泉資源活用施設を設置する。				
		利用者	市民、市民以外	施設管理体制	7名	開館日時間等	10:00 ~ 19:00 (毎週水曜日・年末年始・臨時休館を除く)
	事業概要	サービス提供の内容					
指定管理業務		(1)天目山温泉の利用申請の受付及び利用許可等に関すること。 (2)天目山温泉施設使用料徴収事務に関すること。 (3)天目山温泉施設利用料の徴収事務に関すること。 (4)施設利用にあたってのサービス、指導に関すること。 (5)その他の日常業務					
自主事業		(1)自社路線バスの活用(ローカル路線の車内にパンフレットやポスターを掲示) (2)自社ネットワークの活用(県内外営業所にパンフレットやポスターを掲示) (3)ポイントカードの発行及び「ふろの日」のポイント2倍企画や、季節ごとのイベントの企画 (4)景観の改善 (5)付帯設備の充実					

管理運営コスト推移(千円)		令和元年度 (指定期間1年目)	令和2年度 (指定期間2年目)	令和3年度 (指定期間3年目)	令和4年度 (指定期間4年目)	令和5年度 (指定期間5年目)
予算	指定管理料	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	利用料金(温泉利用)収入	17,220	17,804	16,200	17,440	19,000
	その他(売店・食堂)収入	19,600	17,509	13,160	14,560	17,900
	管理運営経費	40,016	41,190	36,354	39,000	42,370
決算	指定管理料	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	利用料金(温泉利用)収入	15,383	12,759	14,063	16,126	17,607
	その他(売店・食堂)収入	13,038	11,961	13,143	13,518	16,263
	管理運営経費	38,753	32,334	37,462	43,146	44,635
収支		-4,331	-1,614	-4,256	-7,502	-4,765
減収補填			807	2,128	3,750	
施設の稼働状況		令和元年度 (指定期間1年目)	令和2年度 (指定期間2年目)	令和3年度 (指定期間3年目)	令和4年度 (指定期間4年目)	令和5年度 (指定期間5年目)
指標	施設利用者数(人)	33,596	27,860	31,214	34,885	38,424
活動結果		・自主事業や宣伝等を積極的に取り組んでおり、利用者数は前年比3,539人の増加となった。収入の増加と経費削減に努めたが物価高騰により経費が増加し4,765千円の赤字となった。				

評価観点	評価 (5 4 3 2 1) 高 → 低	評価の説明
(1)事業の運営	3	・基本協定に基づき事業運営について適切に管理が図られている。 ・自社ネットワーク、路線バス、県内外の各事業所を活用した宣伝を行い前年比3,539人の利用者増加となった。 ・自主事業も着実に実施し、地場特産品の取り扱いや季節に応じたサービスを展開するなど、工夫している。
(2)施設の維持管理	3	・施設運営に支障がないよう、日常点検、法定点検を実施し、軽微な修繕等については管理者側で早急に対応し、施設の適正管理と安定運営が図られている ・衛生管理や清掃を徹底し施設の適正な維持管理が図られている。
(3)収入支出	3	・収入については、自主事業を積極的に展開し前年比4,226千円の増加となった。支出については、燃料費、電気料、材料仕入など物価高騰の影響により前年比1489千円増加するなど収支は4,765千円の赤字となった。
(4)総合評価		総合評価の説明(施設所管課による一次評価)
優良 良好 妥当 要改善 不適	妥当	・施設の安定運営のため適正な維持管理が図られている。 ・収支については、経営努力により、利用者数と収入では前年に比べ大幅に増加したが、物価高騰の影響により4,765千円の赤字となった。

評価結果に対する施設所管課の対応	
当面の課題	・自社ネットワーク、路線バス、県内外の各事業所を使用し宣伝を行い、バスの利用者への施設の周知を行うなどの経営努力により、利用者、収入共に増加傾向である。登山シーズンには施設の規模を超える入浴客が訪れる等、サービスの質の維持が懸念される。黒字経営に向けて売店、食堂の利用促進等売り上げを増加させるための計画を積極的に考えていく。 ・施設、設備の老朽化や改修が必要な箇所等施設の健全化も課題となっている。
課題解決への対応	・温泉利用者に食堂での食事や売店でのお土産の購入に繋がられるよう、広告や広報、HP、自社のネットワークなどを活用し、積極的に施設のPRを図る。 ・令和6年度からは日川渓谷レジャーセンターと一体となり指定管理が始まるため、合わせて黒字転換するよう努める。 ・施設、設備については、優先順位をつけ、効率的に改修を行い健全化を図る。

二次評価(公共施設活用等検討委員会での総括意見)

・仕様書及び協定書のとおり適切に管理運営されている。  
・物価高騰の影響により、燃料費、電気料、材料仕入等が増加し支出は増えているものの、自社ネットワーク、路線バス、県内外の各事業所を使用し宣伝を行い、バスの利用者への施設の周知を行うなどの経営努力を行っており、成果として、利用者・収入共に増加させることができているので、引き続き、経費削減を図りつつ集客に向けた積極的な活動を行っていただきたい。